

## 令和 2 年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	自己評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
				成果指標・判断基準	達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程	グローバル時代に生きる資質能力の育成	グローバル時代に必要資質・能力の育成の観点から、通常学級、特別支援学級が関係ついた体験型の学習を柱にした教育課程を編成し、実施する。	STEP, SMART, 海外の姉妹校との国際交流等、特色ある教育活動を充実させる。	ポートフォリオをもとにした個人の振り返りおよび諸行事のアンケート結果を分析する。	生徒同士の接触が制限される状況下で、リーダーを中心に互いの関係づくりについて考えさせることができたが、活躍の場を十分に提供することができなかった。	C	コロナ禍にあつて学校行事をはじめとして、諸々の教育活動に制限があつた1年だったが、個々の生徒が元気に登校し、成長できるよう、充実したケアに取り組んでほしい。	C	行事や教育活動全般にわたって、生徒に身に付けさせたい力を再確認し、指導・支援のあり方を引き続き検討する。
教育研究等	東雲小・中学校での共同研究の推進	汎用的能力育成のために、各教科等の教育内容を精査しながら、学習指導法の開発を行う。	グローバル時代をきりひらく資質・能力を育むための学びを豊かにする授業の創造をテーマに教科等本来の魅力と学びのつながりを追求する。	教科等の研究構想をもとにした研究成果の発信方法を模索し、外部からのフィードバックの結果を分析する。	研究会を中止したことに伴って、教科等で検討した研究構想や研究授業動画の配信を行い、視聴者からのコメントをもとに深化させようと試みたが、アクセス数が伸びず、課題を残した。	C	想定していたような結果が得られなかったかもしれないが、今後も研究会の開催方法等を工夫して、研究成果の情報発信に努めてほしい。	C	研究会の開催方法を含めて、研究成果の発信について、引き続き検討していく。
	インクルーシブ教育の推進		プロジェクト研修や授業交流を通して、研究を推進する。	プロジェクト研修や授業交流における協議の内容等を分析する。	通常学級教員・特別支援学級教員でチームを編成したが、時期・時間的な制約により、本年度着任者(6名)の授業研修会が中心となつてしまった。	C	今年度は臨時休業などの影響で授業時間数や研修の時間を確保するのが大変だったと思うが、研究や研修の時間や機会を確保し、東雲中学校の特色を生かした教育の推進に努めてほしい。	C	通常学級の教員と特別支援学級の教員が協働して授業研究を行うことができる環境を整える。
社会連携・社会貢献活動等	地域連携・地域貢献の推進	通常学級と特別支援学級を有する特色や小中連携を行っている教育研究の拠点校として情報発信する。	本校の研究成果を外に向けて発信するとともに、他校への訪問や他校からの訪問受け入れを積極的に行う。	研究成果の発信の内容・方法、他校の研修会との連携や他校からの訪問視察・研究協力依頼へ対応などの実績をもとに検証する。	感染拡大防止のため講師依頼を断ったケースもあり、限定的な貢献であった。本校を会場とする授業研究会も1回開催できたのみであった。大学からの研究協力依頼は、社会・体育・特別支援・国語等にあり、何とか対応することができた。	C	他校の研究会等も予定通りには開催されなかったこともあり、やむを得ない面があるが、地域との連携および貢献については、引き続き検討していく必要がある。	C	社会連携・貢献に関して、多様な視点から、そのあり方の可能性を探っていききたい。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が入力する。

令和 2年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	自己評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
				成果指標・判断基準	達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	チーム東雲を意識した学校経営		校長をトップとして学校経営基本方針に基づいて教育活動を推進する。	教職員を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析する。	新型コロナウイルス感染症への対応で、これまでにないような判断を迫られることも多かったが、教職員が協働して業務に取り組むことができた。	B	多くのことが予測できず、学校経営が困難な状況下であったが、教職員が協働して教育活動の充実に取り組んでいたと判断できる。	B	校長・副校長・主幹を中心としたチーム学校ができるように引き続き努力する。
	危機管理と安全な学校環境の整備	学校教育の基盤となる健康、安全、安心の確保及び附属学校としての使命の遂行の観点から、教員配置の適正化と教育研修の改善を図るとともに業務内容の整理による業務改善を行う。	年3回の避難訓練を実施するとともに、安全衛生委員による定期的な点検を行う。	教職員・生徒による振り返りの内容を分析したり、安全点検の結果に基づいた環境整備や改善の達成状況を検証したりする。	時間的・内容的な制約がある中ではあったが、何とか予定通りの訓練を行うことができた。また、生徒の学習という側面を大切にしながら、事前学習等を行うことができた。	A	密を避けるように実施可能な形態で避難訓練等を行い、生徒に安全について考えさせる学習を実践できていたと評価できる。	A	教職員だけでなく、生徒の危機管理意識を高めることができるような取り組みを行っていききたい。
	勤務時間管理と業務内容の改善		勤務時間の時短を目指した効率的な勤務を呼びかける。	教職員を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析する。	コロナ禍で多くの行事が中止となった影響でもあるが、入調業務を除いては、過重な負担は減少した。	B	コロナ渦の結果として勤務の負担過剰が軽減された面があるようだが、より効率的な勤務のあり方を引き続き検討してほしい。	B	教職員の中に業務内容の見直しや効率化を目指す意識を高められるよう努める。
グローバル対応	国際交流の充実	グローバル時代に必要な資質能力を実際の国際交流を通して育成する。	グローバルマインドを意識した姉妹校(EMS・オデッセイ・ムンドヨ4中)との交流事業を推進する。	教職員・生徒対象にアンケートを実施して、その内容を分析する。	姉妹校との相互訪問が中止となる中で、生徒会総務の企画や教科の授業を通じた交流を試みる事ができた。	C	国際交流が難しかった1年だと思うが、相互訪問ができない中での交流のあり方を検討してほしい。	C	相互訪問による直接交流の見通しが立たない中で、どのような形の交流が可能かを検討していきたい。
教育実習	教育実習の充実	今日的な教育課題と学校の特性に応じた教育実習の在り方について検討する。	教育実習生に今日的な教育課題を意識させながら学習指導案を作成させるなど、実践力を向上させる。	教育実習生および教員を対象としたアンケートを実施し、結果を分析する。	実習生と生徒の接触が最小限となるように実施せざるを得ず、例年のような充実した教育実習を展開できなかったが、その中で最大限の指導を行うことができた。	B	実習生へのアンケート調査では、概ね肯定的な回答が得られているので、引き続き学生のニーズに合った実習を行ってほしい。	B	教育実習生と生徒の関わり方について、コロナ禍においても実現可能な形を探っていききたい。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。